2 基本構想

第1章

まちづくりの目標

第1節 まちづくりの理念

市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち

第４次総合計画では、まちづくりの基本理念として、「新世紀への希望にあふれ、すべての人が時代を超えた、心の豊かさを実感できる日本のふるさとをめざして」を掲げ、市民と都市の新しい絆を築きながら、ふるさとへの愛情や誇りにあふれた人々と都市との理想的な絆を深め、風格や品格といったものを醸しだす都市づくりを進めてきました。

今後は、第４次総合計画時に育んだ都市づくりを礎として、市民意識調査等をはじめとする様々な意見を踏まえ、本市のさらなる飛躍と発展に向け、「農業」と「観光」、「企業誘致」を経済活性化のための基幹産業の３本柱として位置付けます。

この３つの基幹産業を推進することで、福岡と鹿児島とを結ぶ南九州の交流拠点都市として、九州自動車道や鉄道を核とした物流、県域を越えた「人・もの・情報」の交流により、人吉市全体の経済を活性化させ、将来にわたって持続的に発展していく「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち」を積極的に展開していきます。

また、本市には、世界に誇れる３つの秘めたる宝物があります。

１つ目は「人吉球磨の山々と清流球磨川水系」。２つ目は「相良700年の歴史が育んだ文化財や地場産業（温泉、焼酎、鍛冶等）」。そして、３つ目が「比類なき価値を持つ肥薩線産業遺産群」です。

このような恵まれた地域資源とその特徴を最大限に活かし、市民が様々な可能性を追求することができ、かつ、美しい自然や歴史を未来に継承しながら、活気と賑わいに満ちた健康で笑顔で暮らせるまちづくりを進めていきます。

第2節 目指すべき将来都市像

こうしたまちづくりの基本的な考えに基づき、目指す都市像を次のとおりとします。

自然と相良文化が輝く美しき千年都市ひとよし

将来都市像のイメージ

初代の相良長頼（ながより）公、近世の礎を築いた相良清兵衛（せいべえ）公の志を大切に受け継ぎ、鎌倉時代から続く相良700年の歴史、城下町、球磨川、さらには文化といった本市の宝物を、過去（鎌倉時代）から千年は守っていくという意味と、また、一方で、その宝物を今後、現在から未来へ向けて、千年守っていくという両方のニュアンスで将来都市像を掲げます。

第3節 将来のまちの姿

1 人　口

平成 22 年国勢調査における本市の人口は 35,611 人です。これは平成 17 年の国勢調査（37,583 人）と比べ 1,972 人（約 5%）減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の市区町村別将来推計人口」（平成 20 年 12 月推計）によれば、本市の人口は平成 37 年以降に人口 30,000 人を割り込み、平成 47 年には 26,419 人になると見込まれています。また、10 年後の将来人口を「コーホート法」に基づき国勢調査人口を用いて推計しますと、今後も減少傾向となり、平成 32 年度（2020 年）には 32,200 人程度となることが予測されます。

しかし、産業の振興や定住化の促進に努めるとともに、豊かな地域資源と生活基盤の向上、地域一体となった施策展開による効果等をもとに予測し、計画の最終年度である平成 31 年度の目標人口を 33,000 人程度と設定します。

2 世　帯

平成 22 年国勢調査における本市の世帯数は 14,001 世帯です。これは平成 17 年の国勢調査（14,135 世帯）と比べ 134 世帯（約 1 %）減少しています。

全国的な少子高齢化が進む中、他自治体においては増加傾向にある世帯数ですが、本市においては、1 人世帯の増加や核家族化等も考慮しつつ横ばい状態と予想され、計画の最終年度である平成 31 年度は 14,000 世帯程度と想定します。

3 土地利用構想（グランドデザイン）

グランドデザインとは、まちづくりにおける壮大な図案、設計、着想であり、市全体のイメージパース（青写真）となるものです。

❶土地利用の基本方針

土地は、現在及び将来における限られた資源であるとともに、市民が生活及び生産を通じて様々な活動を行うかけがえのない貴重な資源です。豊かな自然と調和するとともに、市民の暮らしや産業経済の場として不可欠な基盤であるため、総合的かつ計画的な土地利用を進める必要があります。

本市の市域は 210.48 k㎡であり、森林 75.1%、農用地 7.7%、原野 0.1%、水面・河川等 2.1%、道路 2.8%、宅地 3.7%、その他 8.5%となっています。

土地利用にあたっては、公共の福祉を最優先に、自然環境の保全と都市環境の調和に配慮しながら、地域の特性や資源を最大限に活かし、市域全体の均衡ある発展のために適切な土地利用を図ります。

❷土地利用構想

現況の土地利用状況、地域特性により、以下のように土地利用をゾーニング（区分）し、本市の均衡ある持続的発展と一体性の確保に向けた土地利用を図ります。

中心商業・業務ゾーン（中心市街地）

本市の玄関口であり交通結節点でもある人吉駅に隣接し、古くから人吉城下の町人まちとして栄えてきた中心的商業・業務機能集積地の中心地であり、核的都市ゾーン。

産業ゾーン（工業団地・工業用地）

地域交通の結節点である人吉ＩＣに隣接した梢山工業団地や機械工業団地、また、10ｈａ級以上の面積を持つ人吉中核工業用地といった産業集積を促進する産業ゾーン。

スポーツ・レジャーゾーン（村山公園）

人吉市街地を一望する展望台や、各種屋外スポーツ施設、遊戯広場等、多様化するレクリエーションニーズに対応する総合レジャーゾーン。

歴史・観光ゾーン（人吉城跡、永国寺付近）

人吉市の歴史を代表する人吉城跡を核に、史跡や城跡のガイダンス施設等により人吉の歴史、文化に触れることができる施設が集積する観光ゾーン。

文化・スポーツゾーン（カルチャーパレス・スポーツパレス）

屋内・屋外の本格的なスポーツ施設と、図書館、文化会館といった専門的な文化施設が併設し、近くに隣接する村山公園とも連携するスポーツ機能と文化活動のゾーン。

観光・レジャーゾーン（石野公園）

人吉の技を継承する体験型施設クラフトパークと、遊戯広場、キャンプ場等の多彩なレクリエーション施設からなる総合観光ゾーン。

球磨川河畔ゾーン

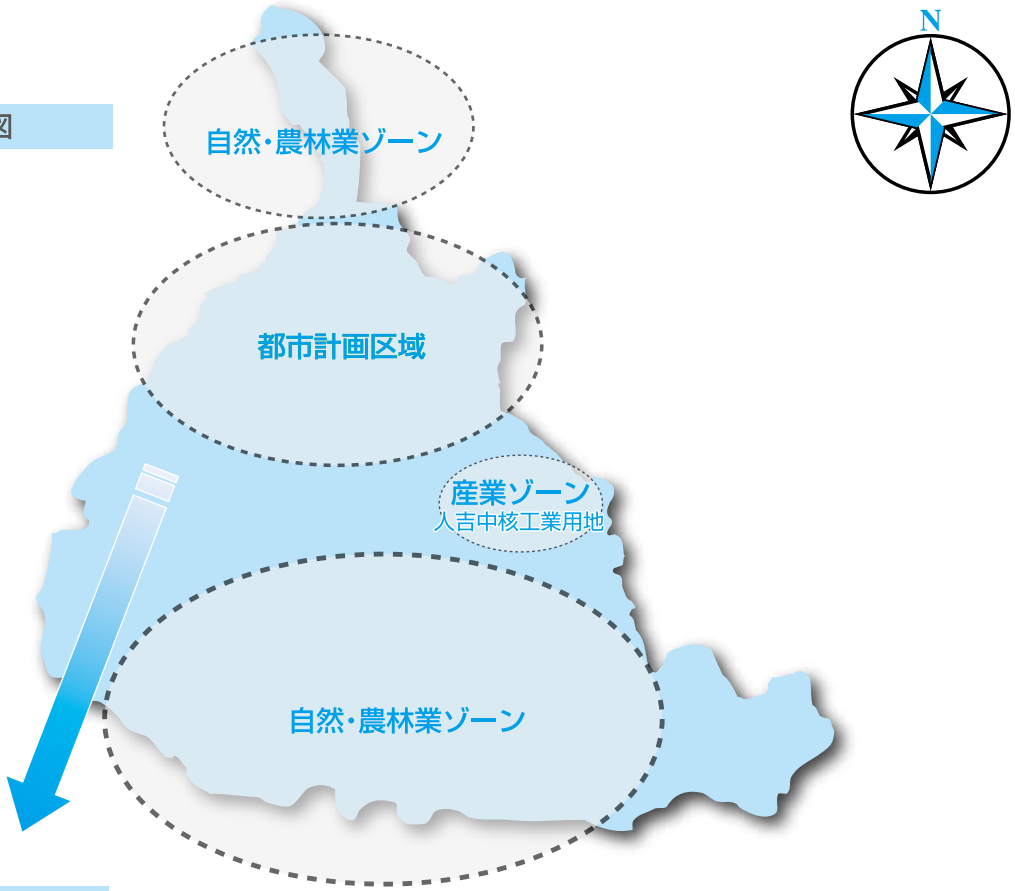
豊かな自然環境と、人吉の原風景といえる緑に囲まれ、心休まる悠々とした水の流れをもつ河川景観が市民生活に潤いをもたらし、同時に本市を代表する観光資源ともなるアメニティ（快適）ゾーン。

自然・農林業ゾーン

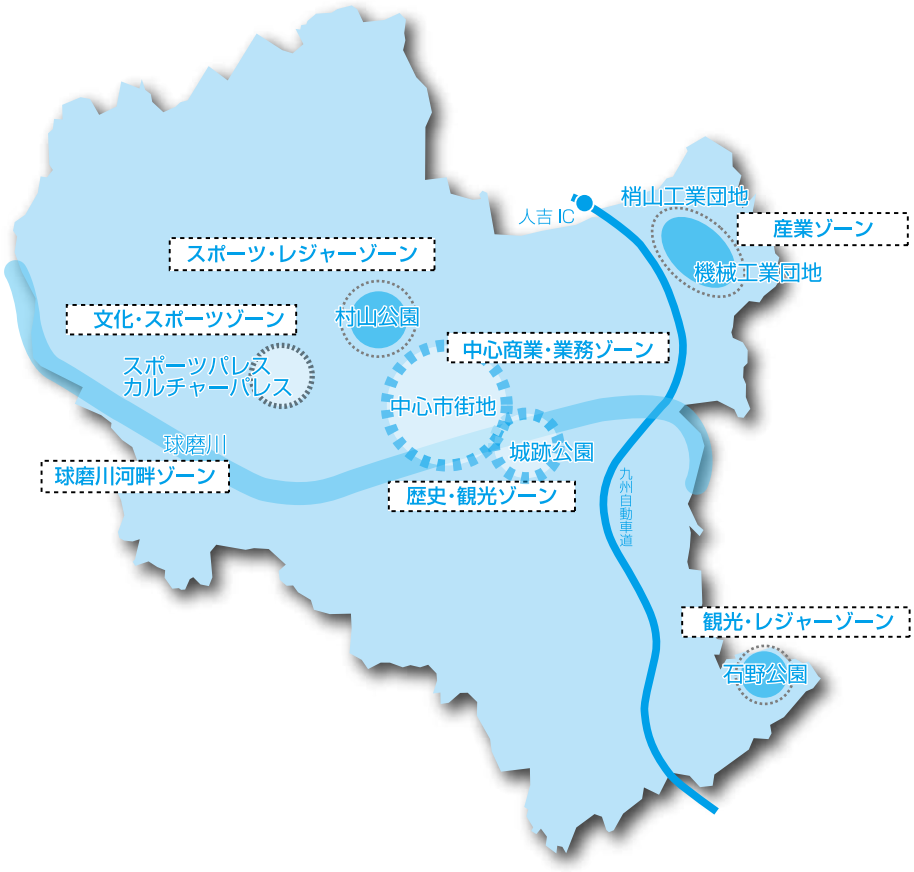
市面積の７割を占める豊かな自然環境に恵まれた区域であり、自然と触れ合い、親しめる森林と農地が一体となった環境複合ゾーン。

イメージ図

人吉市全域図



都市計画区域内拡大図



第2章 まちづくりの政策（戦略）

将来都市像の実現のために、政策となる次の 6 つの戦略を掲げ、総合的・体系的な政策の推進を図ります。

戦略 1 産業・経済

農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし

人口の減少が始まっている中で、積極的な企業誘致や起業支援に取り組み、恵まれた自然環境・地域資源を活かした商工業振興を図ることで雇用の場を確保し、定住促進につなげていきます。農業では、本市の農業就業人口の大部分を高齢者が占める中、後継者の確保や新規就農者の支援等の担い手育成支援や生産性の向上に取り組みます。また、「健康」を基軸とした農産物の人吉ブランド化に取り組むとともに、消費者拡大のために新たに販路を拡大し、「地産他商」を推進しながらビジネスチャンスの最大化を図ります。

さらに、交流拠点にふさわしい中枢的な観光都市としての充実と経済の活性化のためにも、観光地としてのイメージアップを図り、観光客が求める効果的な情報発信体制を確立するとともに、「比類なき価値を持つ肥薩線産業遺産群」や「温泉、焼酎、鍛冶」等の地域資源を活かした魅力と賑わいにあふれるまちづくりを目指します。

基本計画（施策）	
（1）農業の振興	（2）商工業の振興
（3）企業誘致の推進	（4）雇用対策の推進
（5）林業・林産業の振興	（6）おもてなしの心による観光と交流
（7）地域資源の活用と推進	

戦略 2 教育・文化

美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし

世界に誇れる宝の一つである「相良 700 年の歴史が育んだ文化財」を大切にするとともに、本市が輩出した様々な偉人を顕彰することをはじめ、承継されてきた伝統文化や市民の自主的な文化活動等を支援し、感性あふれるまちづくりを進めます。

全国規模で急速な少子化が進む中、家庭や地域における教育の役割はますます大きくなっています。「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標のもと、学力の向

上はもちろん、次世代を担う子どもたちが安心して学ぶことができる質の高い教育が求められています。

また、まちづくりは人づくりにもつながります。「学校から家庭へ、地域から地域へ、そして世代から世代へ」と、豊かな人間性やたくましく「生きる力」を持った子どもたちの育成を目指すとともに、すべての市民が、自らの個性と能力を伸ばすことができるように生涯学習の充実やスポーツの振興を図ります。

基本計画（施策）	
（1）社会教育の推進	（2）学校教育の充実
（3）市民芸術・文化の振興と継承	（4）歴史遺産の保存と活用
（5）スポーツの振興	

戦略 3

自然環境・安全

母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし

安らぎと潤いある快適な生活環境を確保するため、「人吉球磨の山々と清流球磨川水系」といったかけがえのない豊かな自然環境を保全し、後世に伝える責務があります。そのためにも、地域資源の有効利用を図りながら、上下水道といったライフラインを充実し、持続可能で自然環境への負荷が少ない循環型社会の形成を目指します。

また、昨今の異常気象による大雨や台風、地震による大規模な自然災害が全国各地で発生しており、本市においても、かけがえのない地域資源がそのまま自然災害の猛威となる可能性は否定できません。安全に対する市民の意識が高まっている中、災害が発生した場合の被害を最小限にとどめるために、地域防災力の向上を図り、災害に強い安全なまちづくりを進めます。

さらに、近年のインターネット社会や都市化の進展に伴い、振り込め詐欺等の凶悪犯罪、交通事故や火災等、市民が生活を営むうえでの不安要素も多様化しています。市民が安心して日常生活を営むことができるよう、市民一人ひとりの意識の向上はもちろん、市と地域が一体となって安心なまちづくりを進めます。

基本計画（施策）	
（1）消防・防災体制の充実	（2）交通安全・防犯体制の充実
（3）安全・安心な消費生活の実現	（4）環境保全・自然との共生
（5）資源循環型社会の形成	（6）上水道の整備
（7）下水道の整備	

戦略 4

健康・福祉

笑顔があふれ、幸せいっぱい健康福祉都市ひとよし

本市の公的扶助費の急増は従来の予測を上回る状況で進行し、その結果、医療、福祉の面で、市の財政的負担や個人の負担が増加しており、経済状況の悪化等も相まって、従来の社会システムでは対応が困難になってきています。さらに、家族形態の変化により、個人の取組だけでは健康的な生活を維持することが難しい状況となっています。

このような状況の中、すべての市民が生涯にわたって心身ともに健康で長寿を喜び、自立した生活を送ることができる仕組みが必要です。そのためにも「温泉」等の地域資源を活用した健康づくり、保健予防の推進、また、介護保険や生活保護等のセーフティネットとしての社会保障機能の充実を図り、地域全体で助け合う福祉コミュニティを形成し、元気いっぱいで、楽しく暮らすことができるまちづくりを推進します。

基本計画（施策）	
（1）笑顔で元気に健康づくり	（2）医療保険制度の安定運営
（3）向う三軒両隣・地域福祉の推進	（4）子育て支援の充実
（5）最低生活の保障と自立支援	（6）障がい児（者）の福祉の充実
（7）高齢者福祉の充実	

戦略 5

都市基盤・建設

便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよし

本市は、相良 700 年の歴史を誇る九州の小京都といわれ、国宝青井阿蘇神社や人吉城跡、そして滔々（とうとう）と流れる球磨川等のすばらしい景観を有していますが、近年、高層の建築物や派手な色彩の屋外広告物により、九州の小京都「人吉」に相応しい景観の保全と形成が喫緊の課題になっています。

豊かな市民生活を送るための基盤整備はまちづくりの基礎として重要です。都市と自然環境とのバランスが取れるように各地域の状況に配慮しながら、生活道路の整備や維持補修、住環境、都市景観等の整備を進めることにより、コンパクトでありながらも快適で利便性の高いま

ちづくりを進めます。

また、市内外の円滑な交通を確保するため、交通環境の整備や鉄道、バス路線等の既存の交通網を有効に活用しながら、地域公共交通の活性化を図り、便利で住みやすいまちづくりを目指します。

基本計画（施策）	
（1）快適な住宅・住環境づくり	（2）地域公共交通ネットワークの強化
（3）生活道路の整備と生活交通の確保	（4）水と緑の環境整備
（5）魅力的な市街地の形成	

戦略 6

地域・自治

信頼と連携で力を合わせる市民主役都市ひとよし

理念と将来都市像に掲げられたまちづくりを実現し、市民が住み続けたいと思える地域社会づくりを目指します。そのためにも、行政だけではなく、市民・企業・団体がそれぞれの情報を共有し、公共の担い手として適切な役割分担のもとに、責任と成果を分かちあい、信頼と連携で力を合わせて市民が主役となるまちづくりを進めます。

また、地域の主体性が求められる地域主権型社会を迎えるにあたり、地域の総力が問われる時代といわれています。自立した行政経営を確立するため、限られた財源・資源を有効に活用し、市民のために、職員の挑戦と総力を結集して、さらなるスピードある行財政改革を進め、公平で透明性のある行政経営を推進することで信頼のあるまちづくりを目指します。

基本計画（施策）	
（1）市民と行政との協働	（2）感動される市政の推進
（3）持続可能な財政運営	

第3章 政策・施策の体系図

将来都市像：自然と相良文化が輝く美しき千年都市ひとよし

まちづくりの6つの政策(戦略)	施策項目
産業・経済 農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし	(1)農業の振興 (2)商工業の振興 (3)企業誘致の推進 (4)雇用対策の推進 (5)林業・林産業の振興 (6)おもてなしの心による観光と交流 (7)地域資源の活用と推進
教育・文化 美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし	(1)社会教育の推進 (2)学校教育の充実 (3)市民芸術・文化の振興と継承 (4)歴史遺産の保存と活用 (5)スポーツの振興
自然環境・安全 母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし	(1)消防・防災体制の充実 (2)交通安全・防犯体制の充実 (3)安全・安心な消費生活の実現 (4)環境保全・自然との共生 (5)資源循環型社会の形成 (6)上水道の整備 (7)下水道の整備
健康・福祉 笑顔があふれ、幸せいっぱい健康福祉都市ひとよし	(1)笑顔で元気に健康づくり (2)医療保険制度の安定運営 (3)向う三軒両隣・地域福祉の推進 (4)子育て支援の充実 (5)最低生活の保障と自立支援 (6)障がい児(者)の福祉の充実 (7)高齢者福祉の充実
都市基盤・建設 便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよし	(1)快適な住宅・住環境づくり (2)地域公共交通ネットワークの強化 (3)生活道路の整備と生活交通の確保 (4)水と緑の環境整備 (5)魅力的な市街地の形成
地域・自治 信頼と連携で力を合わせる市民主役都市ひとよし	(1)市民と行政との協働 (2)感動される市政の推進 (3)持続可能な財政運営